

〈特別講演〉

韓国の図書館の児童サービスと家族読書

宋 永 淑

はじめまして。ただ今ご紹介いただいた宋永淑（ソン・ヨンスク）でございます。

Family Reading in Children's Library Services of Korea

Young Sook Song

Seoul Society for Children's Library
and Literature (SSCLL)
Seoul, Korea



Today's topics

Brief history of Children's library services
in Korea

Campaigns to promote family reading

Best Practices of family Reading

私は自己紹介の時はいつもお話のおばさんと言っております。お話のおばさん、ソウルから飛んできたお話のおばさん宋永淑でございます。今日は皆様に韓国の図書館の児童サービスのことと、私が主催している「ソウル読書教育研究会」の活動についてお話をするチャンスをいただき大変嬉しく思っております。私の日本語はちょっと下手ですが、聞き手の皆さんの日本語が上手ですから、安心してお話しますからどうぞよろしくお願いします。

（ソウル読書教育研究会とチェッコリ運動）

えっと、ソウル読書教育研究会のことからはじめます。私たちはチェッコリ運動をしております。チェッコリ運動というのはチェッコリの意味がわからないと、チェッコリ運動が理解できないでしょう。ですから、チェッコリの意味をまず説明します。

チェッコリとはモンコリからアイデアをとりましたが、モンコリは韓国

の伝統的な門についたものです。それでモンコリをひっぱってドアを開けると、部屋の中にも外にも自由に行ったりきたりすることができる。それで、チェツというのは日本語で読むと冊で、1冊2冊の冊ですよ。本の意味です。韓国では本をチェツというのですけれども、コリはなにか、リングとかあるいはチェーンの意味です。それでチェツとコリが合わせてチェッコリのように、本を開ける時チェッコリをひっぱって本を開けると本の世界、読書の世界に入ることができるでしょう。それで読書の意味でチェッコリを使っています。チェッコリの意味は三こ、三つの意味があるのですが、ひとつはチェッコリ、読書の意味ですよ。二つ目はコリはソクルで大人とか先生とか私、司書たちはチェッコリになって、子どもたちがチェッコリをひっぱって本を開けるように、なんとか、本と子どもと自然を結びつける役割をして下さいと、この意味でチェッコリは読書教育の意味です。もうひとつはチェッコリは昔からの純粋な韓国語で本箱です。これは箱の意味、箱とかかごの意味でチェッコリは本の保存をしている本箱です。本箱から図書館の意味をとりました。ですからチェッコリ運動と言え、読書と読書教育と図書館運動を、総合的にすることですよ。それでソウル読書教育研究会の会員たちとか人たちは、チェッコリ運動をして子どもと本を自然に結びつけることにしよう、という意味です。それで、ソウル読書教育研究会のホームページですけど、ホームページの中、ロゴもチェッコリにアイデアを取りました。

ではチェッコリ運動のためソウル読書教育研究会が何をしたのか10年間の歩みを写真でちょこっとのぞいてみます。

韓国で、チェッコリ運動の10年の間に、繰り返してワークショップをしたのですが、一番はじめに小さいオフィスを借りて、事務室をはじめました。研究会の事務室を。その時あんまりもう部屋が小さくて、本棚は上にしたんですよ。それからもう少し大きいところに引越したんですけど、その時お話会やそんなことをやって、文庫、積極的に文庫運動をはじめたんです。96年に始まった研究会が、97年になって文庫活動をはじめることになりました。それで2001年にもうちょっと大きくして、小さい子ども図書館といってもいいくらい、一般の家庭ですけども、リビングルームが閲覧室になったんですよ。そのように、それで勉強会、会員たちの勉強会、大抵お母さん

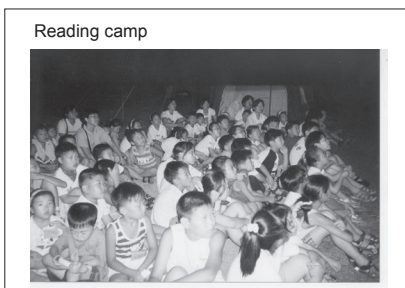
たちだったんですけど、お母さんたちの勉強会、セミナーといった勉強会をすることもできるようになった。でもまた、経済の問題で私のうちに引越しました。それでリビングルームが文庫にもなったし、事務室にもなったし、と、そんなことにしました。

勉強会ですよね。もうちょっと大きくなったところのお話の部屋です。これはお話、月1回にお話会をするんですけど、大人のためのお話会ですよね。これが私のうちのリビングルームです。これからお話するんですけども、おばあさんの、お話のおばあさんたちが協力したんですけど、これが、お話おばあさんたちです。



これは家族のためのお話のフェスティバル、ハンマダンというところですけど、またこれもあとでお話しますので。

読書キャンプもやったんですけど、読書キャンプもあちこちで。それで そんなことをして、読書教育とかチェックリ運動を研究会の人たちと一緒に、今12年目ですけど、やってきたんです。



では今日の本当のテーマに入りましょう。

Today's topics

Brief history of Children's library services
in Korea

Campaigns to promote family reading

Best Practices of family Reading

(韓国の図書館の児童サービス)

まず韓国の子ども図書館の簡単な歴史と、児童サービスのプログラムの開発のことをお話します。そして家庭読書を推進するためのキャンペーンの事例をいくつかご紹介いたします。お話をしていく中で、普通のおばさんがどうやって美しいおばあさんになっていくのがわかるでしょう。また、どうやって子どもや家族の目を釘付けにすることができるかをお話します。そうすると子どもたちが、読書キャンプなどでどうやってお話や本や自然の友たちになるのがわかると思います。

それではまずはじめに韓国の図書館の児童サービスについて簡単な歴史をお話します。1970年代までは、韓国の公立図書館では児童サービスをほとんどしなかったといってもいいと思います。1979年5月になってはじめて公立の子ども図書館がオープンしました。

1979. 5. Children's Library of the Seoul City



<http://children.lib.seoul.kr/>

子ども図書館の中でインピョン子ども図書館という私立の図書館のことを少しお話します。

Je	487 libraries	389 children's room			
Gy		8 children's libraries			
Je					
total	487	250	223	14	389(8)

2005 Corporate Children and Library

- 20 -

書館を設立したのです。この写真のイ会長は、社会科学図書館の財団を作ってその中で子ども図書館の本部を作り、色んなところの社会福祉館にインピョン子ども図書館を作りました。この図書館事業でイ会長はマクザイサイ賞を受けました。まさに韓国のカーネギーといえるかもしれないんですけど、残念ながらインピョン子ども図書館は現在は活発な活動をしてないと思います。してないようです。

1990年代の半ばを過ぎて韓国には児童書の専門書店ができて、家庭主婦やお母さんを中心にした子どものための読書教育活動が広がりました。そのような主婦はその後の子どものための図書館と家庭文庫が活発に活動することにつながりました。子どものための図書館は1998年に「小さい図書館協議会」を結成し、2005年3月には社会法人子ども図書館という団体になり、その後は2007年に「韓国子ども図書館協会」と変わっています。国会議員であるイ・ミギョンさんが今、理事長をやっています。23年からはマスコミのキャンペーンでキャンペーンをきっかけにした「奇跡の図書館」プロジェクトが始まりました。

（「奇跡の図書館」プロジェクト）

「奇跡の図書館」プロジェクトでは、TVの番組を通して公的なまた私的な機関の金銭的な支援や個人からの寄付金が集まりました。

さらに地方自治体もお金を支援金を出して、奇跡の図書館と名づけられた子ども図書館が全国的に設立されました。その奇跡の図書館は2006

年までに9館設立されており、つい最近、今年の5月23日、チョンジュ（全州）に10館目の奇跡の図書館が建てられています。この奇跡の図書館プロジェクトで、プロジェクトを通して個人と館が、お互いに助け合おうという新しい形の共同活動がはじまったといえるでしょう。

2003~ Miracle library Project
(based on a TV program gathering donations)

9 Miracle libraries in regions throughout Korea

Founded and managed both by private and government hands
→ new 'cooperation model' for libraries



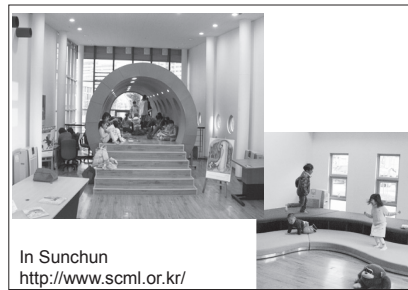
2003~ Miracle library Project

to give full play of
 "children's imagination and inspiration"



Designed exclusive for children
 babies and toddlers

この写真は一番はじめのスンチョン（順天）の奇跡の図書館です。奇跡の図書館は子どもが想像力や思考を十分に発揮しながら活動できるように配慮しております。そのため創造的な雰囲気を作る理想的な空間を用意するために、韓国ではじめて子どもたちのための特別なデザインされた空間をつくりました。乳幼児のために可愛くてゆったりしたデザインの特別な空間も用意しました。



この写真はチェッチョン（提川）にあるもうひとつの奇跡の図書館です。2003年からは IFLA の児童青少年分科会の常任委員会への参加と、同時に韓国図書館協会に児童青少年サービス委員会が作られました。

児童青少年サービス委員会の目的は、子どもたちにより読書習慣をつ

けさせること。レベルの高い蔵書、コレクションですよね、蔵書構成。子どもたちの読書教育活動を担う司書や幼稚園、学校の先生を支援する理想的な児童青少年サービスを定着させること。児童司書の役割を確立。それにお話の講座プログラムなどを開発することなどです。



2003~
Working Committee for Children's Services of
the Korean Library Association (KLA)

aims

- promote reading habits
- preservation of book quality
- support library reading promotions
- establish role of children's librarians
- development of training/education program

Development of children's services programs

1. Reading classes during vacations (1971~)
- Sponsored by the National library
2. One day reading class
3. Story telling hour
4. Reading clubs etc.

韓国の児童サービスプログラムには学校の夏休みや冬休みを利用した読書教室、たいてい図書館見学である1日読書教室、お話会、読書クラブなど様々なものがあります。この資料は休みを利用した読書教室のカリキュラムです。カリキュラムには図書館の見学、図書館利用教育、自由読書、作文などの、1週間の集中教育プログラムです。読書教室のプログラムは数的にまだ十分ではない韓国の図書館事情に合わせた、韓国独特な児童サービスのひとつと言えるでしょう。

Reading classes during vacations (1971~)

time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
09:00 -09:50	Registration	After reading record	After reading record	After reading record	After reading record
10:00 -10:50	Self-introduction	What is The book? (history of books)	Story-Making in NIE (using photos in newspaper)	How to Write? (activity of after reading)	Role play using books to read
11:00 -11:50					
12:00 -12:50	lunch				
13:00 -13:50	Booktalk or Storytelling	How to Read?	Drawing of after reading	Write the impressions of after reading	Evaluation
14:00 -14:50		Free reading	Free reading		completion
15:00 -15:50	Library			film	

Today's topics

Brief history of Children's library services
in Korea

Campaigns to promote family reading

Best Practices of family Reading

(家庭読書推進のキャンペーン)

さて次に韓国で行われている家庭読書推進のためのキャンペーンをいくつかご紹介します。

"One City One Book" project (2003~)

Aims

To settle reading cultures to citizens without distinction of age and gender

Procedures

Children's books were mainly selected
Mass Reading and discussions

organized by the Korean Library Association
sponsored by the grant for public benefit

"One City One Book" project (2003~)

Results

Reassure mutual love and understandings
through communications with children

Reinforce family love, friendship

The key to success

Full support from the public libraries

ひとつの街でひとつの本を読もうという「ワンシティ・ワンブック」プロジェクトは韓国図書館協会が国の支援によって立ち上げました。ひとつの都市や地域に同じひとつの本を子どもから大人まで一緒に読むことを勧めるもので、主に子どもの本が選ばれます。このプロジェクトはそれぞれの地域の図書館がこのプロジェクトを完全に支援して、家庭での読書や学校での読書討論会への参加を奨励します。その結果、親とお子さんの間や子どもと大人の間でお互いに理解し、人々を愛することを再確認するきっかけになったようです。もちろん図書館では選ばれた本は図書館の貸し出しも増え、書店では売り上げもすごく上がったようです。もうひとつの例は、ソウル市では本を読むソウルキャンペーンを行っています。

本は芸術と文化の核心というテーマの下で、ソウル市はソウル財団を設立し、公共図書館や私立図書館の読書週間あるいは読書の月イベントを奨励しています。もうひとつはリーディング・ファミリーですね。

「本を読む家族」プロジェクトですけれども、これは、家族単位で読

"Reading Seoul" project (2004~)

Main theme

Books are the core of culture and art

Establishment of Seoul Culture foundation

In public libraries

Reading week events, seminars, programs
during the reading month, September

"Reading family" project (2002~)

Main theme

Creation of reading atmosphere in families
is the key of reading promotion

Encourage "reading family"

frequent users of the libraries
certification from the KLA
along with family hanging board

書の雰囲気をもつめるためのプロジェクトです。地域の図書館をよく利用したご家族に本を読む家族と書かれた賞状を渡して表彰します。

(「美しいおばあさん」プロジェクト)

次にはおばあさんたちをストーリーテラーになるよう教育する「美しいおばあさん」のプロジェクトを紹介します。

“Beautiful Granny” project (2004~)

“Silver” storytellers workshop



“Beautiful Granny” project (2004~)

Coordinated by
Seoul Society for
Children's Library and Literature
(SSCLL)

Supported by “Grant for Woman” from Seoul city

“Beautiful Granny” project (2004~)

Aim

- Offer grandmothers chances to volunteer as storytellers
- Develop opportunities for grandmothers and grandchildren to get together
- Reinforce communication between the different generations
- Provide Self-fulfillment, social activity for the aged.

このプロジェクトは2004年からソウル読書教育研究会によって準備され、ソウル市の女性発展基金の支援をもらって運営しています。このプログラムの目的は50歳以上のおばあさんや、そのうちおばあさんになる人に、次のようなことが味わえるように構成しました。お話を通してボランティアのチャンスを提供することができること。お話と本と童話を通して、孫と過ごす時間を与えること。孫との時間を通して違う世代と触れ合うことにより、お互いを理解したり、働くお母さんを助けることができること。孫たちなどの子どもたちにお話してあげることを通して、自分も満足し、それだけでなく、老年期の美しい社会活動を経験でき、またその活動が社会からも歓迎される

ことです。これはお話のおばあさんの養成現場の写真です。

お話のおばあさんの教育は、お話の教育と絵本の読み聞かせ二つのコースになります。3月中旬ごろから7月のはじめくらいまで週1回、2時間の15週間、行われています。

"Beautiful Granny" project (2004~)

Workshop process

Storytelling course (10 weeks)
Picture book course (7 weeks)

Every Tuesday for 2 hours
at the public library

"Beautiful Granny" project (2004~)



"Beautiful Granny" project (2004~)

Workshop process

1. Practice various ways to tell stories
; Storytelling, Read aloud, Sing a song and nursery rhymes etc.
2. Meetings and lectures with children's story writers
3. Create chances to become familiar with children by attending storytelling hours in libraries and reading-camps.

教育課程にはお話についての様々な方法を実習を通して行っています。ストーリーテリングや読み聞かせ、歌を歌う、歌や童謡を歌うこと、童話作家との話し合い、図書館や読書キャンプでのお話会などの講義と実習を行います。4ヶ月の厳しい訓練の結果、美しいおばあさんが誕生します。そして多くの図書館が、お話会のような児童サービス・プログラムをやりたいようなボランティアを迎えることになります。これまで100名以上のお話のおばあさんが卒業し、その多くの図書館や幼稚園などでストーリーテラーとしてボランティア活動を行っております。

"Beautiful Granny" project (2004~)

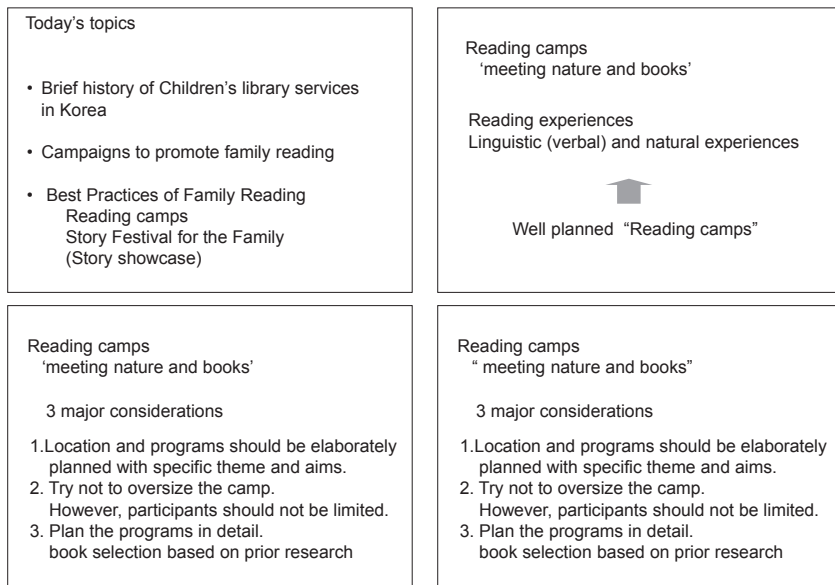
Results

Beautiful grannies!



(読書キャンプ)

では次には家庭読書の事例として読書キャンプと家族のためのお話のフェスティバルを紹介します。ソウル読書教育研究会は毎年読書キャンプを開いています。



読書キャンプは子どもたちが本と自然に触れ合い、楽しい時間を過ごすいいチャンスになります。しかし本と自然を上手に結び付けるためには配慮しなくてはならない点があります。まずキャンプの場所がプログラムのテーマと目的にちゃんとあっていることです。2番目はキャンプの大きさがあまり大きくなりすぎないことです。そしてキャンプのプログラムやキャンプで読む本の選定のため、綿密な計画をすることが大事です。例えば「私たちの伝統文化を探して」というテーマでのキャンプの場所探しを



例にしてみますと、キャンプのテーマが決まったら、このテーマに合う場所を探します。

私たちはチョンジュというところにある韓国の伝統的な家などが保存してある村に行くことにしました。そこで夕食の後は韓国の昔話、韓国の昔からある伝統的な大広間といえはテチョンというのですけれども、その広間でみんなで伝統的な遊びユンノリをしました。ユンノリは日本ではカリウチです。ユンノリ、カリウチを楽しみました。まだ、お庭では昔からの縄跳びを行いました。

それで韓国で有名な庶民の食べ物ビビンパムを食べました。チョンジュはビビンパムの本場です。皆さまに韓国の文化をより理解してもらうためにこの写真を見せたいですけど、普段1人1杯食べますが、キャンプの時は8人がキャンプに参加したんですけど、8人分をひとつの大きいボールでみんな混ぜて、分けて食べました。皆さまも韓国にいらしたときはいつでもいいから連絡してください、伝統的なチョンジュビビンパムをおもてなししますから。

先ほどキャンプを成功させるためにはそのサイズがあまり大きくならないほうがいいと申し上げました。

しかしこれは参加者の年齢を制限することではありません。参加者の特性に合わせた多様な活動ができるように計画されたプログラムが必要

Traditional outdoor activities;



Famous Korean dishes; Bibimbap (sized for 80)
(rice mixed with seasoned vegetables)



Reading camps
"meeting nature and books"

3 major considerations



1. Location and programs should be elaborately planned with specific topic and aims.
2. Try not to oversize the camp.
However, participants should not be limited.
3. Plan the programs in detail.
book selection based on prior research

なのです。これはキャンプの時に見学した遺跡について高学年がガイドマップを、低学年はミニブックを作ったものの、写真です。幼稚園の子は歌を歌ったり絵を描いたりします。夜にはもちろん美しいおばあさんの昔話を聞きました。おばあさんとおじいさんのためにはお茶の時間も作りました。


では次にキャンプの進め方について詳しくお話します。キャンプの時には本を読みます。読む本を選ぶ時は、キャンプをする場所の特徴、例えばその地域の歴史とか遺跡などについての色々な情報を調べておきます。そして選ばれた本については参加者にキャンプに行く前に読んで来てくれるよう言い

Main theme; Finding our traditional culture

Based on historical attractions visited during camp

senior students	junior students
	
Mind maps	Mini-book

Songs & Picture drawing
(kindergarten or younger)



08.23.2005

Enjoy storytelling



Tea ceremony for grandparents




08.23.2005

Reading camps
"meeting nature and books"

3 major considerations

1. Location and programs should be elaborately planned with specific topic and aims.
2. Try not to oversize the camp.
However, participants should not be limited.
3. Plan the programs in detail.
book selection based on prior research

Book selection, prior reading,
Planning with children's view points



ます。1泊2日のキャンプではその本を読む時間を十分にはとれないからです。読んで行った本についてはブックトークとか読書討論、お話会などはキャンプで経験する実際の自然経験と一体になるよう計画します。

その時大人の観点からだけでなく、子どもの視点にたった計画をたてることが大事です。チョンジュは韓国の伝統的な紙、漢紙が有名なところですが。キャンプではそのテーマに合わせて、漢紙を使って紙の工芸のお皿を作りました。子どもたちはとても喜んで、立派なお皿を作っていました。ソウルのインサドンに行きますと様々な韓国の伝統的な工芸を見ることができますが、私は個人的には紙工芸は日本のほうがより繊細で韓国のもより優れているように感じますがいかかでしょうか。

楽しい韓国音楽、プンヌンノリ韓国の能楽をテーマとしたもうひとつのキャンプの写真をみてください。これはプンヌンノリのグループ別のコンテストです。これは参加した人たちの集合写真です。



(家庭お話フェスティバル)

家庭読書のもうひとつのいい例として家族のためのお話のフェスティバル、ハンマダンをご紹介します。ハンマダンというのは、韓国語で大きい庭という意味です。こちらは図書館のような施設や屋外にある庭で、家族で楽しむように考えられたお話フェスティバルです。2004年からソウル読書教育研究会の中のチェックリお話会の会員によって、読書の月などにイベントとして図書館から依頼されてお祭りを進めています。全体で1時間半くらいのプログラムで、昔話やわらべ歌、あるいはスライドやパワーポイントを利用した絵本の読み聞かせ、伝統的な野外演劇、マダン劇、マダンクというんですけど、マダン劇の形を借りたお話をパフォーマンスなどで構成します。最後には参加者全員で一緒に踊ったりすることもあります。

Main theme; Experience Exciting Korean Music
"Pung-mul-nori"



Main theme; Experience Korean Music
"Pung-mul-nori"



Story Festival for the Family (Story showcase)

One of the best way to promote ' family reading '

Story showcases
using various storytelling methods

Hosted by SSCLL Chekgori storytellers' Troop
In libraries, social centers, outdoors etc.
During reading week or reading month (Sep.)
All family members are invited

Story Festival for the Family (Story showcase)

Programs

- Telling Folktale and Sing a Song (30 min)
- Slides for Picture Book (10~15min.)
- Rest and Stretching (5~10min.)
- Yard Play (Madang Nori) (20~25min.)
- Dance Together After Yard Play (5~10min.)

写真を何枚かお見せします。これ
はおばあさんのお話会です。

Story Festival for the Family (Story showcase)
story telling



これはマダン劇ですよね。

Story Festival for the Family (Story showcase)
yard play



Story Festival for the Family (Story showcase)
dance together



Story Festival for the Family (Story showcase)

Delivers joy of stories
Deliver good experience of libraries
Attract families to libraries

韓国の伝統的であるマダン劇は音楽的な要素が含まれています。今日まだお時間大丈夫だったら昔話のフンプノルブであるパッタリョンのパフォーマンスの動画をお見せします。これはチェッコリお話会が昨年末、ソウルにあるヨンサン図書館で行ったものです。これは最後に一緒に踊る場面です。家族のためのお話のフェスティバル、ハンマダンに参加者との触れ合いの中からお話の楽しみを分け合うことが出来、また図書館で新しい経験を得ることができ、図書館をより魅力的な場所と認識してもらえるいいチャンスにもなると思います。

では最後に私の話をまとめますと、図書館のプログラムは利用者をひきよせる磁石のようなものだと思います。

図書館や本と読書の世界に利用者

Library programs act as the magnet to draw users

Librarians; draw users to the library, to the interest of books, and reading.

Libraries; creating good reading habits from the early stage, providing family reading environment

Projects; induce families to use the libraries together, promote family reading programs

をひきよせることは図書館関係者である私たちの義務だと思います。ですから利用者が小さな頃からいい読書習慣を身につけることが出来るように、家族のための読書環境をつくり、家族のメンバーと一緒に参加できるプログラムや家庭読書プログラムを開発しなければならないと思います。図書館、知識と情報社会のダイナミックなエンジン、これは2006年の IFLA ソウル大会のテーマでした。ダイナミック・エンジンである図書館の基本と核心は家族読書と家庭読書だと思います。

ご清聴ありがとうございました。カムサハムニダ。

Thank you for your attention!

www.readingchildren.com
chegkori@hotmail.com



動画をちょっと見せますね。さっき言ったようにホンブノンプの本ですけど、この本です、パッタリョン。このパッタリョンは韓国のパンソリ知ってますか。パンソリの形で作った本ですけど、それをマダン劇にしてやったものです。マダン劇というのは他の周りの人たちと一緒にすることですよね。

(そん よんすく。ソウル読書教育研究会)